「折鶴を作るわけ」

昭和20年8月6日。広島県に原子爆弾が落とされました。2歳の佐々木貞子さんは、その時、原爆が落ちた所から2㎞ぐらい離れたところに住んでいました。しばらくは元気に生活できていましたが、10歳になった頃、体の調子が悪くなり入院しました。原子爆弾が、長い時間をかけて、貞子さんの体を弱らせていたのです。貞子さんが入院していた時、お見舞いに鶴をもらいました。「鶴をたくさん折れば元気になれる」「戦争の無い世界が来る」と毎日鶴を折りました。

昭和20年、各務原市にも爆弾が何度か落とされ、工場や家が壊され、焼かれました。6月22日は、その日の1つです。

先生の父親は、その時4年生。須衛に住んでいました。空襲警報がなり、縁側から眺めていると、西の空から飛行機が飛んできて、赤星山の向こうに、大粒の雨の様に爆弾を落としていったそうです。

先生の母親は、その時1年生。三柿野に住んでいました。妹2人を連れて、各務山を越え、会本まで逃げました。幼い妹を連れた避難が大変なのは、想像できます。今よりも多くの人が暮らしていた三柿野で、残った家はたった2軒だったそうです。直径10mほどの爆弾でできた穴がいくつもでき、多くの方が亡くなりました。

須衛の西にあった川崎の工場も狙われました。いくつかの焼夷弾が、須衛の村も襲いました。降り注ぐ火の粉が、木造の家を焼き尽くたそうです。

「こんな悲惨なことは二度と起こさない！そのためには、この日のことを忘れてはいけない！」と決められたのが、各務原市平和の日（6月22日）です。学校では、毎年、鶴を折り千羽鶴にします。そして「世界中から戦争が無くなりますように！」

「日本の平和が続きますように！」と願いを込めて、毎年、児童の代表が広島に届けています。

　奇しくも、今はコロナウイルスで、世界中が大変です。「皆がコロナに感染しませんように！」「早く、普通の暮らしが戻りますように」と気持ちを込めてみましょう。

　残念ながら、貞子さんは元気になること無く、12 歳で亡くなってしまいました。しかし、平和な暮らしを願って、一生懸命に鶴を折った貞子さんの気持ちは受け継がれ、今の私たちの暮らしが作られています。皆さんの気持ちが、これから先の世の中を作っていくのです！